



平成 17年 1月期 第3四半期業績の概況(連結)

平成 16年 12月 6日

上場会社名 ピジョン株式会社

(コード番号:7956 東証第1部)

(URL <http://www.pigeon.co.jp/>)

問合せ先 代表者役職・氏名 代表取締役社長 松村 誠一  
責任者役職・氏名 執行役員経理部担当 高島 康

TEL (03) 3252 - 4114

1. 四半期業績の概況の作成等に係る事項

- ①会計処理の方法の最近連結会計年度における : 無  
方法との相違の有無  
②連結及び持分法の適用範囲の異動の状況 : 有 連結(新規)3社(除外)1社

2. 平成 17年 1月期第3四半期の業績状況(平成 16年 2月 1日 ~ 平成 16年 10月 31日)

(1)経営成績(連結)の進捗状況 (注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています。

	売上高		営業利益		経常利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
17年1月期第3四半期	29,913	18.2	2,046	13.0	2,000	19.7
16年1月期第3四半期	25,308	( - )	1,810	( - )	1,670	( - )
(参考) 16年1月期	34,156		2,651		2,504	

	四半期(当期)純利益		1株当たり四半期 (当期)純利益	潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益
	百万円	%	円 銭	円 銭
17年1月期第3四半期	1,209	30.9	60.12	60.02
16年1月期第3四半期	923	( - )	46.23	46.18
(参考) 16年1月期	1,270		63.59	63.53

(注) 売上高、営業利益、経常利益、四半期(当期)純利益におけるパーセント表示は、対前年同四半期増減率

(2)財政状態(連結)の変動状況

	総資産	株主資本	株主資本比率	1株当たり株主資本
	百万円	百万円	%	円 銭
17年1月期第3四半期	36,010	19,662	54.6	973.33
16年1月期第3四半期	31,768	18,350	57.8	917.90
(参考) 16年1月期	30,212	18,647	61.7	932.65

(3)連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
17年1月期第3四半期	3,123	△ 2,595	△ 580	3,171
16年1月期第3四半期	1,708	10	△ 1,191	3,575
(参考) 16年1月期	2,156	374	△ 2,427	3,223

3. 平成17年 1月期の連結業績予想(平成 16年 2月 1日 ~ 平成 17年 1月 31日)

	売上高	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円
通 期	41,400	2,700	1,600

(参考) 1株当たり予想当期純利益(通期) 79円20銭

上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

[ 経営成績（連結）の進捗状況に関する定性的状況等 ]

当第3四半期におけるわが国経済は、昨年来続いていた景況感の改善は継続しているものの、原油価格の高騰などにより伸長はやや鈍化している状況にあります。当社グループの販売先であるドラッグストアや赤ちゃん専門店、スーパーにおいては、一部猛暑効果が見られましたが、度重なる台風の上陸により外出が制約されやや低調に推移しました。

このような経済環境の中で、当社グループは、中期経営計画「企業価値の創造 21」の最終年度として積極的な経営戦略の推進としてグループ事業体制の構築と新商品の投入による攻めの販売戦略を展開いたしました。

その具体策をセグメント別に説明いたします。

「育児事業」におきましては、国内は出生数の減少という厳しい市場環境の中ではありませんが、出産から子育てという感動と喜びを生活者の皆様と分かち合える新商品を積極的に投入いたしました。具体的には昨年より販売いたしました好評の「親子で乳歯ケアシリーズ」の第二弾として小ヘッドで超静音、微振動の『仕上げ用電動歯ブラシ』、永年にわたる赤ちゃんの歩行研究から生まれた『ベビーシューズ』の発売など、流通及び生活者からも好評を得ております。海外においては国別では台湾、シンガポールで計画を下回ったものの、中国、韓国、中近東が好調な業績となり、一方商品群別では母乳関連用品や哺乳器更にはベビー排泄関連用品の売上が堅調に推移いたしました。4月に子会社化したアメリカの Lansinoh Laboratories, Inc. は、母乳パッドをはじめとしてヨーロッパへの進出も果たし順調に業績を伸ばしております。一方、「育児事業」の中の子育て支援事業においては4月から運営を受託いたしました大田区の山王保育園、さらには今年4月から独立行政法人なった全国国立病院の院内保育園 116ヶ所の運営も予想を上回る実績で推移しております。

「ヘルスケア事業」におきましては、尿とりパッドをはじめとした消耗商材はメーカーとの価格競争がここに来て激化しております。熾烈な市場環境にあっても同事業は高齢者の増加とともに確実に拡大する分野です。当社グループはこのような厳しい状況でも積極的な販売戦略を打つことによりお客様からは安心のブランドとして指名買いを促進させるキャンペーンを実施いたします。また、2月に子会社化した多比良株式会社とは商品開発、営業、物流面におけるシナジーを発揮することにより同事業を当社グループの第二の柱に育てていきます。

「その他事業」におきましては、マタニティのインナーウエアを製造販売する子会社ピジョンウィル株式会社の業容拡大が大きく貢献したことで、デリケートな赤ちゃんを優先に考えるママのための化粧品『ママのメイクシリーズ』の新発売が同事業の売上に貢献いたしました。

以上の結果、第3四半期の売上高は299億13百万円、営業利益20億46百万円、経常利益20億円、当期純利益12億9百万円となりました。

[ 財政状態（連結）の変動状況に関する定性的情報等 ]

当第3四半期末の総資産は、360億10百万円となりました。流動資産は、受取手形及び売掛金等が増加したこと等により172億43百万円となりました。また、固定資産は、関係会社投資等により187億66百万円となりました。

負債につきましては、新規連結子会社の短期借入金・長期借入金の増加等により159億74百万円となりました。また、株主資本は196億62百万円となり、この結果、株主資本比率は54.6%となりました。

( 連結キャッシュ・フロー )

当第3四半期の営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益が高水準であったこと等により31億23百万円の増加となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、関係会社株式の取得等により25億95百万円の減少となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、短期借入金・長期借入金の借入および返済による資金の減少等により5億80百万円の減少となりました。

以上の結果、現金及び現金同等物の当第3四半期末残高は、前連結会計年度末より51百万円減少し、31億71百万円となりました。

[ 業績予想に関する定性的情報等 ]

通期業績予想では、「米国ランシノ・ラボラトリーズ社の買収（子会社化）に関するお知らせ」（平成16年4月15日発表）の際に変更いたしておりますが、その後の変更はございません。

第3四半期連結(要約)貸借対照表

(注)千円未満切捨て

期 別 科 目	前第3四半期末		当第3四半期末		前連結会計年度	
	(平成15年10月31日現在)		(平成16年10月31日現在)		(平成16年1月31日現在)	
	金 額	構成比	金 額	構成比	金 額	構成比
(資産の部)		%		%		%
流動資産	15,447,922	48.6	17,243,535	47.9	14,416,767	47.7
固定資産	16,321,003	51.4	18,766,473	52.1	15,795,518	52.3
1.有形固定資産	13,239,477		13,388,049		13,034,510	
2.無形固定資産	545,437		3,214,501		637,585	
3.投資その他の資産	2,536,087		2,163,923		2,123,423	
資産合計	31,768,925	100.0	36,010,009	100.0	30,212,286	100.0
(負債の部)						
流動負債	10,669,526	33.6	12,907,128	35.9	8,871,615	29.4
固定負債	2,389,482	7.5	3,067,615	8.5	2,344,616	7.7
負債合計	13,059,009	41.1	15,974,743	44.4	11,216,231	37.1
(少数株主持分)						
少数株主持分	359,052	1.1	373,213	1.0	348,544	1.2
(資本の部)						
資本合計	18,350,863	57.8	19,662,051	54.6	18,647,510	61.7
負債、少数株主持分 及び資本合計	31,768,925	100.0	36,010,009	100.0	30,212,286	100.0

第3四半期連結(要約)損益計算書

(注)千円未満切捨て

期 別 科 目	前第3四半期		当第3四半期		前連結会計年度	
	(自平成15年2月1日 至平成15年10月31日)		(自平成16年2月1日 至平成16年10月31日)		(自平成15年2月1日 至平成16年1月31日)	
	金 額	百分比	金 額	百分比	金 額	百分比
売上高	25,308,277	100.0	29,913,985	100.0	34,156,379	100.0
売上原価	14,981,768	59.2	18,345,195	61.3	20,317,691	59.5
売上総利益	10,326,509	40.8	11,568,790	38.7	13,838,688	40.5
販売費及び一般管理費	8,516,083	33.6	9,522,746	31.9	11,186,876	32.7
営業利益	1,810,425	7.2	2,046,043	6.8	2,651,812	7.8
営業外収益	244,560	0.9	268,327	0.9	332,362	0.9
営業外費用	384,478	1.5	313,965	1.0	479,269	1.4
経常利益	1,670,507	6.6	2,000,405	6.7	2,504,905	7.3
特別利益	5,445	0.0	168,639	0.6	157,264	0.5
特別損失	85,849	0.3	49,629	0.2	661,510	1.9
税金等調整前第3四半期 (当期)純利益	1,590,103	6.3	2,119,415	7.1	2,000,659	5.9
法人税、住民税及び事業税	501,109	2.0	919,362	3.1	389,555	1.2
法人税等調整額	59,369	0.2	87,797	0.3	238,767	0.7
少数株主利益	105,729	0.4	78,332	0.3	101,381	0.3
第3四半期(当期)純利益	923,894	3.7	1,209,518	4.0	1,270,955	3.7

第3四半期連結(要約)キャッシュ・フロー計算書

(注)千円未満切捨て

科 目	期 別	前第3四半期	当第3四半期	前連結会計年度
		(自平成15年2月1日 至平成15年10月31日)	(自平成16年2月1日 至平成16年10月31日)	(自平成15年2月1日 至平成16年1月31日)
		金 額	金 額	金 額
・ 営業活動によるキャッシュ・フロー		1,708,384	3,123,481	2,156,160
・ 投資活動によるキャッシュ・フロー		10,494	2,595,174	374,138
・ 財務活動によるキャッシュ・フロー		1,191,999	580,793	2,427,339
・ 現金及び現金同等物に係る換算差額		89,468	552	17,193
・ 現金及び現金同等物の増減額		437,411	51,934	85,766
・ 現金及び現金同等物の期首残高		3,137,936	3,223,703	3,137,936
・ 現金及び現金同等物の第3四半期(当期)末残高		3,575,348	3,171,769	3,223,703